

9月18日（木）総合教育センターを訪問しました！

対談 テーマ

子どもたちの学びを支える
—現場で活躍する教諭と、それを支える総合教育センターの役割—

第2回の対談では前半にセンターで開催されている初任者と中堅教諭のクロス研修に参加し、現場で日々奮闘する教諭たちが抱える課題や現状を共有しました。後半のセンター職員との対談では、滋賀県の子どもたちの学びを支えるために課題となっていること、必要とされていることは何か、そしてセンターがどんなことを意識して研修を推進しているのかについて意見交換しました。

訪問した教育委員

土井 真一 委員 塚本 晃弘 委員 窪田 知子 委員

グループ協議への参加



グループごとの対話では「学級経営プランシート」をもとに、初任者が日々悩んでいること、1学期から2学期にかけての学級や子どもたちの変容を中堅教諭と共有しました。協議の最後には教育委員を代表して土井委員が

- ・決して一人で抱え込まないでほしい
- ・一人ひとりにできることに限りがあっても、互いに協力することで大きな可能性が切り開かれる

という、メッセージを述べました。

意見交換より

- 委員：初任の先生たちの発言を聞いていると「完璧でないといけない」と考えている方が多いと感じました。だからこそ、今日のような研修はとてよい取り組みだと思います。研修を企画する側として、他府県の実践などの情報をどう得ていますか。
- センター：他府県情報は常にアンテナを張って収集し、必要に応じて視察などを行っています。また、昨年度 NITS に1年所員を派遣し研修を行いました。そこから情報も得ています。
- 委員：10～20年前の研修に求められていたことと今求められていることは違うと思います。今の初任者・中堅研修で意識されていることはどんなことでしょうか。
- センター：中堅教諭等資質向上研修では、先生方が今までの教師生活を振り返り、価値付けし、新しい目標を見つける機会になることを意識しています。初任者研修では授業づくり、メンタルヘルスを大事にしています。

- センター：初任者が一人で抱え込まず、困ったことをいえる環境が重要で、研修担当者もそこを常に意識して運営しています。
- 委員：今日のグループでの対話を見ていると、初任者の先生が自分の困っていることを相談されていて安心して話している様子を見ることができました。
- 委員：昔はテストなどから子どものつまずきが明確に把握できました。現在の学級調査などは長文問題から様々なことを理解させた上で何らかの操作で解答に導く形になっているため、どこが分からないのかが見えづらくなったと感じます。
- センター：子どもたちの解答から、自分の考えはもっていても表現の仕方が分からず、それが無回答率にもつながっていると考えられます。子どもたちが対話を重ねて自分の考えを形成する機会が得られる授業づくりを支えていきたいと思っています。
- 委員：「より良い授業をめざす」という意識で先生たちは研修に参加していると思いますが、いくら授業が上手になっても、目の前の子どもが理解できていないと意味がありません。それぞれの子どもにそれぞれのつまずきがあり、それを先生がどう理解し、どう対応していくかが大切だと改めて実感しました。